

## C. 新生児因子と母乳分泌の関連に関する研究

関 場 香  
木 川 源 則  
高 木 繁 夫  
中 山 道 夫

母乳分泌の確立は広い意味での母児相互作用により育まれるものであり、母、児いずれかに母児相互作用を妨げる要因が存在すれば母乳分泌量に悪影響を及ぼすものと推測される。

特に母乳分泌に関連すると考えられる新生児因子について検討するにあたっては産科的諸因子を考慮しながら、母乳分泌との関連を検討することが重要である。

そこで初年度は新生児因子として比較的寄与率の高い項目の選択、次いで調査方法、統計処理の方法についての検討を行なった。

### 調 査 項 目

今回選択した調査項目は表1のごとくである。

産科的諸因子としては母体年齢、経産回数、分娩体位（仰臥位、坐産、帝王切開）、妊娠中毒症の有無、妊娠中毒症以外の母体合併症の有無、胎児仮死、新生児仮死の有無、分娩損傷の有無、分娩時あるいは妊娠中のDHEA-sulfateなどを含む母体に対する薬剤投与の有無、などの項目をとりあげた。これらの因子の影響についても考慮しながら、出来るだけこれらの因子に影響されない新生児群を対象として検討することを本研究の前提とした。

新生児因子として、まず基本的な因子として胎齢、身長、体重、先天奇形の有無などを調査項目とした。先天奇形については具体的な疾患名、程度を付記することとした。

次いで新生児期の異常として高ビリルビン血症、RDS、低血糖、痙攣、帽状腱膜下血腫その他の疾患の有無などの項目と、それに対する処置とし

て光線療法、輸液、輸血、経管栄養などの有無の項目を設けた。

母子相互作用と母乳分泌に関連する項目としては、近年の母乳栄養確立の推進と関連しとりあげべき項目は多いと考えられるが、客観的に評価できる項目として、分娩後の母子接触の時期（出生直後か、沐浴後か、初回哺乳時か）、母児同室か否か（母児同室であれば何日目からか）、哺乳開始までの時間などを調査項目としてとりあげた。

以上の調査項目以外にも何か母乳量、哺乳量に影響を及ぼすと考えられる因子があれば具体的に記入しておくこととし、新生児因子を出来るだけもらすことなく検討できる余地を残した。

### 母乳量について

1日の母乳分泌量は直接母乳量と出なくなるまで搾乳（児に飲ませなかった量も含む）した量の合計とした。

母乳量は生後1日目より毎日調査し、あわせて児が飲んだ人工乳の量も調査することとした。

### 母乳栄養の確立について

直接的には本研究の範囲ではないが、生後1カ月目の栄養法を調査し、新生児因子との関連を見ることとした。

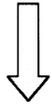
### 調査方法・統計処理

以上の調査結果をすべて数値で表現して入力し大型コンピューターもしくは適宜マイクロコンピューターを用いて統計処理を行なう。

以上の方法により、まず正常と考えられる新生児因子について基本的な母乳量をまとめ、次いで異常と考えられる新生児因子がいかに母乳量に影

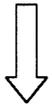
響を与えるかについて検討をすることにより、新生児因子と母乳分泌との関連を明かにしていく予定である。





## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



母乳分泌の確立は広い意味での母児相互作用により育まれるものであり,母,児いずれかに母児相互作用を妨げる要因が存在すれば母乳分泌量に悪影響を及ぼすものと推測される。

特に母乳分泌に関連すると考えられる新生児因子について検討するにあたっては産科的諸因子を考慮しながら,母乳分泌との関連を検討することが重要である。

そこで初年度は新生児因子として比較的寄与率の高い項目の選択,次いで調査方法,統計処理の方法についての検討を行なった。